

小学生が復興を通じて交流

長野大学「たねプロジェクト」開催

6月6日、たねプロジェクト「芽生え観察会」が山元町の坂元小学校で開催され、本市から白石第二小学校の児童など9人が参加しました。このプロジェクトは、中学・高校時代を本市で過ごした長野大学の高橋一秋准教授が、被災地の里山再生を通じた復興支援として企画したものです。3回目のワークショップとなったこの日は、今までの活動を振り返った後、児童たちがペットボトル植木鉢で育てたどんぐりの芽生え観察会を行い、グループごとに芽を出し大きく育ててきている苗のスケッチなどを行いました。



▲どんぐりの苗をスケッチする参加者たち

幻想的な淡い光を家庭にも

白石和紙あかりワークショップ開催

5月17日、有志のまちづくりグループ「蔵富人」が主催した白石和紙あかりワークショップが壽丸屋敷で開催されました。この催しは、同グループが「白石和紙を生活の中で身近に感じて欲しい」と平成14年から実施しているもの。この日は、市内外から12人が参加し、木の枝や植物のつるなどを利用し骨組みをつくり、和紙を貼り付けてランプシェードを製作しました。

参加者のひとり「和紙を貼るのが難しかった。スタッフの方にアイデアをもらって素敵な仕上がりになりました」と笑顔で話してくれました。



▲真剣な表情で骨組みに和紙を貼り付ける参加者

地域の宝を守り続ける

大鷹沢「八枚田」で田植え

5月17日、大鷹沢一区孝子会などが主催した「八枚田代かき足踏み・田植え」が大鷹沢三沢地区で開催されました。この日は、同会のメンバーや大鷹沢小学校の児童など約50人が参加。水を張った田んぼを長靴で足踏みし代かきをした後、ミヤコガネモチの苗を一株ずつ丁寧に手で植えていきました。

この八枚田は、江戸時代に浄瑠璃や歌舞伎で人気を博した「白石」の舞台になった場所で、同会ではまちづくり交付金を利用して整備し、地域の伝統文化を守ってきました。



▲泥だらけになりながら田植えをする児童たち

観光大使「ニホンジン」凱旋！

白石のニホンジンプロジェクト 2015

6月13日、ホワイトキューブで白石市観光大使「ニホンジン」のライブ、「白石のニホンジンプロジェクト 2015」が開催されました。このライブは「ニホンジン」が観光大使に就任した昨年度から開催されており、メジャーデビューしてからは初開催。会場には風間市長も駆け付け、ふるさと納税をPRしたり「ニホンジンプロジェクト」のメンバーと軽快なトークを繰り広げたりするなど、ライブを盛り上げていました。

この日は、市内外から1,000人を越えるファンが来場。会場は熱気と感動の渦に包まれていました。



▲来場者を熱気と感動の渦に巻き込んだニホンジンのメンバーたち

趣味を活かして街を賑やかに

第11回手づくりの市

5月30日、31日の両日、趣味グループや個人が手づくりした作品を展示・販売する「第11回手づくりの市」(実行委員会主催。守屋晋明委員長)が壽丸屋敷で開催されました。「まちなかににぎわいを」と平成18年から始まったこの催しも今回で11回目。来場者は「毎年、出展者との会話を楽しみにしています。所狭しと並べられた作品は、作者の顔が見えていいですね」と笑顔で話してくれました。今年は11のグループ・個人が出展し、2日間で約1,100人が来場。売上金の一部は実行委員長から市に寄付されました。



▲手づくりの手芸品に見入る来場者たち

地域の環境整備と交流を図る

上郡山地区で花の植栽

5月16日、上郡山自治会館運営委員会の主催で、地区内の国道113号沿いの花壇で植栽活動が開催されました。この活動は、まちづくり交付金事業を活用したもので、地区住民に広く声を掛けて行うのは初めて。幼稚園児からお年寄りまで、幅広い年代の住民68人が参加し、花壇にマリーゴールドやサルビアなどを笑顔いっぱい植えしました。初めて花植えをする子どもたちも、地域の大人たちから指導を受けて上手に植えていました。

地域が花できれいになり、見る人の心を癒すとともに、地域住民の交流が深まった一時となりました。



▲花壇にマリーゴールドを植える参加者たち

トライアングル交流で友情を深める

登別市の海老名市が姉妹都市に！

5月18日、登別市(小笠原春一市長)と海老名市(内野優市長)の姉妹都市提携調印式が登別市立幌別中学校で行われ、風間市長が立会人を務めました。この姉妹都市締結は、両市とすでに姉妹都市締結をしていた白石市が、平成20年の白石市農業祭で両市を紹介したことがきっかけで実現。3市長がそろって調印書に調印した後、登別市幌別中学校と海老名市大谷中学校の生徒が交流会や記念植樹などを行いました。3市長をはじめとする列席者たちは、平成23年から始めたトライアングル交流を生かした交流を一層深めることを誓いました。



▲調印式を終えた内野市長(左)、風間市長、小笠原市長(右)

緑のカーテンで夏涼しく

南保育園でゴーヤの苗植え

5月28日、南保育園でゴーヤの苗植えを行いました。これは、夏場の保育室の気温上昇をゴーヤのツルで作る「緑のカーテン」で抑制することと、エアコンの使用頻度を減らして節電することをねらい、平成22年度から実施。この日は、同園の4～5歳児34人が園庭の窓際に張られたネットにゴーヤの苗35本を植え付けました。順調に生育すると、7月下旬には「緑のカーテン」が出来上がり、8月下旬にはゴーヤが実る見込みで、園児たちはゴーヤの収穫を楽しみにしていました。

この取り組みは、市内各保育園などで実施しています。



▲ゴーヤの苗を植え付ける園児たち